

「琵琶湖活用推進基礎調査業務」 先進事例調査の候補地について

資料 2-3

1. 調査の目的・要件

【目的】「琵琶湖保全再生施策に関する計画」に規定する、琵琶湖を守ることと活かすことの好循環の更なる推進の検討に向けた基礎資料や琵琶湖活用の参考となる、他府県および諸外国での先進事例調査

【要件】湖沼や自然環境等の地域資源の保全や再生のために、地域資源を活用する事例
 調査件数 国内（県外）事例：10 件以上・国外事例：5 件以上

【委託先】 国立大学法人 滋賀大学

2. 国内事例 調査候補地

【(1) 認証制度×地域資源の活用】

十和田湖(青森・秋田)	「ユネスコエコパーク」申請
<ul style="list-style-type: none"> ・全国観光資源台帳（公益財団法人日本交通公社）における特 A 資源（湖沼） ・ユネスコエコパーク：生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的としており、保護・保全だけでなく自然と人間社会の共生に重点（日本の登録件数は 9 件） 	
菊池(熊本)	「日本遺産」×ヘルスツーリズム(クアオルト)
<ul style="list-style-type: none"> ・菊池川での稲作景観*癒しの里（温泉・アクティビティ・食）*DMO ・クアオルト（ドイツ）：国が認定し、次の 4 つの療養要因（土に由来する温泉や泥・蒸気、気候、海、クナイプ式（総合的自然療法））で医療保険が適用される地域で、436 称号 374 箇所（2007 年） →昭和 50 年代、湯布院の温泉まちづくりに影響を与える 	
阿蘇(熊本)	「重要文化的景観」・「味の景勝地」申請×ガイドツアー・自然アクティビティ
<ul style="list-style-type: none"> ・味の景勝地（フランス政府が農産物・景観などに認証制度を与えて、商品の品質保証、体験プログラムを提供）の日本版プログラムを申請 ・重要文化的景観を活かしたガイドツアーと自然アクティビティ 	
四万十(高知)	「重要文化的景観」×ガイドツアー・自然アクティビティ+人材育成
<ul style="list-style-type: none"> ・重要文化的景観を活かしたガイドツアーと自然アクティビティ ・景観ガイドツアーの人材育成・体制構築 	

【(2) 地域資源の利用調整】

知床五湖(北海道)	世界遺産×利用調整地区制度×ガイドツアー
<ul style="list-style-type: none"> ・国立・国定公園における風致・景観維持と適正利用に向けたコントロール →立ち入りの認定における利用者数や滞在日数などの基準の設定 	

【(3) 地域資源の利用と負担】

① 法定外目的税

河口湖(山梨)	遊漁税(法定外目的税)
<ul style="list-style-type: none"> ・釣り人を対象に山梨県富士河口湖町が課税 200 円/人・日 800 万円(2014 年) ・駐車場やトイレ 整備、湖畔清掃など、環境整備と環境美化 推進に使用 	

乗鞍(岐阜)	乗鞍環境保全税(法定外目的税)×有料ガイドツアー
<ul style="list-style-type: none"> ・乗鞍鶴ヶ池駐車場にて自動車運転者を対象に課税・1,400 万円(2015 年度実績) ・環境影響評価調査や環境パトロール員設置等に使用 ・五色ヶ原での主催者が実施する有料ガイドツアー(1 人 9000 円・10 日前までに要予約)による入山コントロール 	

② 超過課税

神奈川県	水源環境保全税(個人県民税均等割・所得割への上乗せ)×NPOとの連携
<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県内の水道水の水源であり、県内河川(相模川・酒匂川)を支える丹沢山系の森林保全に活用 ・上流部となる山梨県や、NPO 活動との連携 	

茨城県	森林湖沼環境税(個人県民税均等割への上乗せ)
<ul style="list-style-type: none"> ・荒廃した森林の間伐と林業サイクルの円滑な循環をめざす ・高度処理型浄化槽の設置促進と霞ヶ浦の水質改善 	

③ 協力金徴収

富士山(山梨・静岡)	保全協力金×入山者コントロール
<ul style="list-style-type: none"> ・富士山を後世に引き継ぎ、環境保全や登山者 安全対策等を図る費用に充当 ・登山者を対象に協力金(入山料)として、1 人 1,000 円(2016 年)任意徴収 →吉田初三郎:「富士と琵琶湖は日本人が優美を誇る象徴の双璧」 	

3. 海外事例 調査候補地

【地域資源の活用】

ボーデン湖(ドイツ・スイス・オーストリア)	景観や湖上交通を活かした観光振興、クアオルト
<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖と比較的近い利用形態 (飲料水・観光・下流河川) ・湖上交通による観光促進・湖岸景観の整備・クアオルト (温泉×自然療法) 	

アルザス(フランス)	「味の景勝地」制度×農村風景の活用による保全
<ul style="list-style-type: none"> ・Site remarquable du goût (味の景勝地) : 産地イメージの向上・地域プロモーション・生産者と消費者を結びつける食文化の推進 ・フランスの最も美しい村*エコミュゼ : 質の良い遺産を多く持つ田舎の小さな村の観光促進 →人口 2000 人未満・2つの遺産・遺跡があり、土地利用計画で保護政策を実施 	

ネルソン(ニュージーランド)	国立公園を活かした観光振興
<ul style="list-style-type: none"> ・ネルソン・レイクス国立公園など隣接する複数の国立公園の中継地点 ・自然アクティビティ、自転車ツーリズムの戦略的促進 	

【活用に当たっての工夫と配慮】

フェダー湖(ドイツ)	ソフトツーリズムの展開とNPOとの連携
<ul style="list-style-type: none"> ・世界文化遺産と自然保護団体による環境保全 ・湖上における自然観測ツアー・湖周のサイクリング・ハイキングコース・クアオルト 	

ウイスラー(カナダ)	国有林でのトレイル整備やNPOとの連携
<ul style="list-style-type: none"> ・BC州における国有林公共事業としてのMTB専用トレイル整備・人材育成とNPO活動 ・Whistler MTB Parkの本格稼動(2001)から15年 	

ガルダ湖(イタリア)	湖を囲むトレイル(船の活用、ガイド実施)
<ul style="list-style-type: none"> ・第一次大戦史跡の観光利用と方向性の模索と変貌(高齢者避寒地→スポーツリゾート) ・湖全体を取り巻くトレイルネットワークと現地マップ看板 +船との連携 →ショップに帰属するガイド(非専門)が食文化や集落史に関するインタープリティングを行う 	

【その他、特徴的な事例】

- アメリカの国立公園: 入園料徴取による管理方法
- チニ湖(マレーシア): 琵琶湖の事例を学んだ湖の保全・活用の実践